

会窓同工会

会報'02

1

嶺は秀づる磐梯山

水は湛ふる猪苗代

これぞ乾坤秀霊の

精気鐘り成る處

2

明治三十七春なかば

礎堅くきざかれて

星霜ここに幾かへり

平和の覇者を育みぬ

3

身には白虎の粹を享け

鶴を徽章に雄々しくも

至誠勤労一すじに

進む健児の意気高し

4

峙つ嶺は峻しくも

寄せくる波は高くとも

これ奮闘の活舞臺

これぞ我等の天地なる

校歌 大正十一年制定

帽章帽帯の基本型も校友会
発足の、この年に決まる。

創立 百周年



母校、 新たな歴史へ

同窓会長 吉田一榮

ここ会津の地も再び晩秋初冬の頃となりました。同窓会会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて母校・会津工業高等学校は明治三十五年に福島県立工業学校として設立認可されて以来、波乱と激動の時代の中、輝かしい伝統と歴史を刻み続け、今年平成十四年、記念すべき創立百周年を迎えたのであります。

先月二十六日には記念式典、二十七日には会工百周年祭が盛大に開催されました。また記念事業の大きな柱であった同窓会館（愛称・鶴翔会館）も無事竣工にこぎつきました。我々の悲願、夢が現実になったのです。十月二十二日のテープカットの瞬間はまさに感無量の一言につきましました。会員の皆さん、美しい鶴翔会館をぜひご覧になって下さい。

また全校生徒、全職員の皆さんが参加して一生懸命造り上げた、北側壁面のモニュメントも実に見事です。今後、この鶴翔会館を、後輩諸君には合宿、研修など様々な教育活動に大いに利用していただければこれに勝る喜びはありません。そして創立百周年のシンボルとして末永く大切に愛していただければ幸いです。

このほか沿革史・記念誌・同窓会名簿の発刊をはじめとする様々な記念事業の成功は百周年実行委員会の皆さんの多大なるご尽力の賜であります。そして多くの同窓生の皆様、県および周辺市町村、地域企業の皆様、

県外企業の皆様、PTAの皆様、元・旧の学校職員の皆様方の温かく理解ある御支援と御協力がなくてはこの事業は成し得なかったことでしよう。この場をお借りいたしまして改めて深く、深く感謝と御礼を申し上げます。

さて母校の後輩たちは今年、創立百周年にふさわしい心躍る、華々しい活躍を見せてくれています。何と全国制覇であります。一つはインターハイ・ボクシング競技での遠藤広大君の優勝です。もう一つは機械科研修部の全国電動カート選手権での優勝であります。まさに母校の文武両道の精神を見事に体現している素晴らしい例ではないでしょうか。

現在、そしてこれからの経済情勢・国際政治情勢・環境問題などは現実的に必ずしも明るいものとはいえません。このような中、母校は新しい歴史への第一歩を踏み出しました。百周年はいわば一つの通過点に過ぎません。困難な時代、後輩達は新たなことに挑戦し、新たな実績と伝統を造り上げていくことでしよう。そして我々同窓生はさらなる母校の発展のためにできることは何か常に模索し続けることが責務ではないでしょうか。一人ひとりの小さな思いが集まれば大きな愛情となつて力強く母校を支えていくことでしよう。

最後に同窓会会員の皆様の今後の益々の御活躍と御健康を祈念いたしましてご挨拶いたします。

平成14年 同窓会事業報告

同窓会関係

平成13年

10月10日 坂下会工会総会 手代木幹事長 梨子本先生出席
10月12日 猪苗代会工会 吉田会長 佐藤教頭 梨子本先生
10月20日 平成13年度会工同窓会総会 (ホテル ニューパレス)
前半に若松会工会総会を行う
同窓会報26号発行
11月1日 各地区会工会 会長への総会資料発送
11月2日 三菱伸銅鶴友会総会 岩淵先生出席
11月17日 電友会 山野先生出席
12月8日 会工高定期演奏会開催 本部署員出席

平成14年

1月25日 会津会工会新年会 米熊 53名出席
2月23日 建友会 総会 ホテル 東鳳
2月28日 同窓会入会式 会長 外9名出席
3月1日 会工高卒業式 会長他7名出席
会工卒業祝賀会 会長 外3名出席
4月8日 入学式 会長 外4名出席
4月8日 会工高職員クラブ歓迎会 吉田会長

青山副会長 手代木幹事長 3名出席
ホテルいづみや
3月25日 会工職員クラブ送別会 吉田会長 山内梅津 副会長 3名出席
5月18日 郡山会工会 会長と伊藤 出席 丸新
6月2日 東海会工会総会 会長 校長 根本 (一) 先生3名出席
6月22日 東京会工会総会 会長 校長 梨子本先生 3名出席
6月23日 近畿会工会総会 会長 校長 梨子本先生 3名出席
6月29日 機友会 青山副会長 前田先生 出席
7月11日 「セラ友会」総会 梅津副会長 根本先生出席
7月27日 福島会工会 吉田会長 事務局出席
8月25日 坂下会工会 吉田会長 渡辺教頭 梨子本先生出席
9月5日 西会津会工会 吉田会長他2名出席
校内同窓会係打合せ
9月30日 同窓会名簿 発行



会工同窓会役員 平14

■本部

会長 吉田一榮 20K 会津若松市
副会長 山内清司 13L 会津若松市
田代喜伊市 13L 郡山市
青山昭一 28A 会津若松市
梅津正夫 32T 会津若松市
真田賢祐 26E 河東町
赤津伸雄 25C 東京都葛飾区
大島武二 20C 大阪府吹田市
星 武 27E 愛知県小牧市
坂内茂男 27C 会津坂下町
平田靖雄 25M 会津若松市
寺崎敏夫 22C 猪苗代町
山本幸助 27T 西会津町
山口瑞穂 13T 湯川村
手代木利夫 28A 会津若松市
若狭春生 38K 会津若松市
小沼孝生 29E 会津若松市
伊藤利博 26E 会津若松市
伊藤 博 23M 会津若松市
五十嵐時雄 30A 会津若松市
加藤公司 36A 会津若松市
佐藤幹夫 41G 会津若松市
加藤昭雄 33T 河東町
江花俊和 37T 猪苗代町
小林憲一 31E 会津若松市
片平 寛 32M 北会津町
江花光泰 31L 会津若松市
斎藤四志男 34L 会津若松市
伊藤昭三 25M 会津若松市
坂場恒雄 34K 会津若松市
手代木徳夫 28E 会津若松市
小山源昭 38E 会津若松市
佐藤松夫 33K 会津若松市
関場一宏 33K 会津若松市
江川一正 38E 会津坂下町
佐藤信仁 26M 会津若松市
栗城和夫 41M 会津若松市
岩淵浩一 45L 会津若松市
伊藤 健 41L 郡山市
風間 健 45L 会津坂下町
鈴木一雄 36E 会津若松市
鈴木九郎 35C 会津若松市
三原敏男 35M 会津若松市
高橋利雄 36C 会津若松市
根本平造 39C 会津若松市
小原常雄 39A 会津若松市
菅原健治 39D 会津若松市
長崎敏秀 43G 会津若松市
稲本可文 44K 北会津町
菊地寿雄 48D 会津若松市
山野 敏 49G 会津若松市
渡部 哲 52M 会津坂下町
前田豊治 53A 会津若松市
渡部鉄仁 54A 会津若松市
菅家慶弘 55C 会津若松市
佐藤正道 59C 会津若松市



校長 八巻茂雄

会工百周年 一世紀の時を経て

菊の花も盛りを過ぎて、遙か遠くに雄々しくそびえる磐梯山、飯豊山の嶺々も雪を戴き、冬間近を思わせる今日この頃となりました。同窓会員の皆様にはますますご清祥のことと、お喜び申し上げます。日頃母校福島県立会津工業高等学校の教育活動へは一方ならないご理解とご協力、ご支援を賜り、深甚なる謝意を申し上げます。特に、本年は、創立百周年の年であり、その記念事業に對しても物心両面のご高配をくだされ、まして厚くお礼申し上げます。去る平成十四年十月二十六日、会津風雅堂におきまして福島県立会津工業高等学校創立百周年記念式典が、盛会かつ肅々と執り行われましたことは、皆様にはすでにご承知のとおりであります。式典には生徒・来賓など千五百余りの多数の方々の出席を賜り、挙行することができました。出席者には会工百周年に巡り会ったことを喜び、その歴史・歩みと業績・伝統を思い起こしながら、感動の時間を共有することができました。

翌日十月二十七日は、在校生が中心となり、会工創立百周年祭を実施いたしました。ここでは、百周年を記念して建築されました同窓会館「鶴翔会館」を公開しました。そのすばらしいできばえに、見学者は褒め、感心されておりました。これも、皆様同窓会員のご寄付があったからこそ実現の運びとなりましたもので、感謝に絶えません。今後「鶴翔会館」を大切に維持管理し、学習や研修、合宿にと大いに利用させていただきます。また、同窓会員の皆様には会議などに活用を図っていただきたいものです。以上のように、式典、祝賀会等が滞りなくできましたことを報告し、改めて謝意を表します。

会工の二世紀目、二十一世紀は激変の幕開けです。国際化、情報化その他の要因により、国内産業構造、雇用はその在り方をすっかり従来から変容し、新たな対応を迫られております。これからの会工にあつては、卒業していく生徒へ必要な知識と対応の仕方「生きる力」を育む必要から、変化を的確に見定め、適切に対応しなければなりません。そのためにも、同窓会員の皆様からの助言も必要と考えております。今後とも母校会工への変わらないご理解とご協力、ご支援のほどお願いし、また、この度の創立百周年記念事業に對します御礼と、会工同窓会並びに会員の皆様ますますの発展・ご健勝を祈念申し上げ、あいさついたします。

母校百周年に 逢いて

東京会工会 幹事長 金子昌輝

母校百周年を心よりお祝い申し上げます。この素晴らしい記念の年に巡り逢へた事を、誇りに思っております。

明治大昭和を通して、平成の今日迄、遂に百年、一世紀を迎えました。がそのことは我が国の産業は勿論、教育やスポーツ等、あらゆる分野に、多大な貢献となつております。

三年前の記念事業計画を聞いた時は、果してできるものか、疑問でした。当時総会に、出席した折

「会工百周年から 更なる歩みを」

若松会工会 会長 梅津正夫

会工創立百周年、誠にめでたくございます。同窓会館『鶴翔会館』の完成をはじめ、記念式典等、数々の記念行事の成功が続いております。実行委員会の諸氏をはじめ、全国の各会工会、そして我が地元の若松会工会の会員・ご家族の皆様方のこれまでのご協力、ご支援に對しまして心より御礼を申し上げます。

我が母校「会工」は、次の百年への歩みを始めたわけでありますが、前号で申し上げましたよう

同窓一万

の手帳を、みると古田会長への質問事項があり、事業の大きさに驚きました。早いもので、既に当日を迎えております。未曾有の経済不況のなかで、良きぞ、の威に打たれております。同窓生恩師関係された方々は三万名にもなり、今振り返って想い出を語るには、做題な事柄となります。同窓の理念は変らず、各会各様の行事は、続いています。

ところで、同窓会とは、出来るだけ多くの消息を伝え、ともに近況を語り合う場所、心の依り所と思っております。

に会工百年の歴史は会工同窓会の歴史であり、工業界を中心として各界・各分野で活躍してきた同窓生お一人お一人の歴史につながるものでもあります。本年幾つかの記念行事に参加する中で、現役の生徒の皆さんの若い息吹にふれ、そして輝かしい活躍を耳にし、確実に会工健児の意気の継承と発展を確信いたしました。陸統と時代を担う「会工会」会員の輩出を切に願うものです。そしてまた、共に社会建設の一翼を担ってまいりたいと感じるものです。

時代は二十一世紀、あらゆる分野の転換期であり、新たな創造の出発点である大事なときであることは周知の事です。社会は若い力を育み、そして若い力によって発展するものと考えます。教育改革

昔から、大衆に大変親しみのある、お地蔵さんは、村の道々にあります。しかし地蔵菩薩という尊い、お仏様で、経文も有ります。その中に「多逢聖縁」という言葉があります。「多くの人と巡り逢い、交わる事によって、素晴らしい因縁が、生れる」ことです。

人は、生れた家の隣近所の縁から始まり、竹馬ごっこや、泥んこ遊びの中で、始めて仲間ができてゆきます。

小学生の頃になると、体が大きかったり小さかったり、力の強い弱い子ができ、意知恵や親切等の

が多方面で叫ばれておりますが、我が母校に於きましても本県工業教育の雄として、世界に広がる視点と教育理念を元に生徒の育成に全力を尽くして頂き、将来力ある人材として活躍できる人間教育を念願してやみません。

地域の興隆を思うとき若き意欲あふれる人材が渴望されます。会工健児の成長を若松会工会として、陰に日に更になる協力と応援をしてまいりたいと考えます。今後の地元陣の若松会工会の発展も若いいのちの糾合が重要で、地元就職できる地域の環境の構築も大きな課題でしょう。同窓諸氏と共に、今後とも地域発展に貢献する会工同窓会を築いてまいりましょう。同窓会諸氏のご活躍とご発展を心より御祈念申し上げます。

窓会的情勢(特に百周年記念事業、行事等)について詳しくお聞きし大変有意義な総会でした。又議事についても原案通り決定され無事終了しました。

『星霜ここに 幾かえり』

郡山会工会会長 田代喜伊市
(昭13T卒)

明治三十七年に福島県唯一の、福島県立工業学校として開校され、激動・躍進・荒廃・と変動する工業国日本の発展と共に歩んできたわが会工は、正に「星霜ここに幾かえり」の校歌にふさわしい、百周年であると思います。

誠にめでたくございます。両手を挙げて祝福したいと思ひます。この大行事をむかえるに当たり、学校当局・PTA・在校生・同窓会事務局の長期計画のもとに推進

野球部の諸君へ めざせ!! 「あこがれの 甲子園」

福島会工会 神田信之
(昭31M卒)

『福工から会工へ』一世紀に亘り世界に向け技術者を送り出してきた母校の偉大さと同時に、自分が会工同窓生であることに誇りを感じております。特にその礎となられた諸先輩方々の功績に對し深謝せずにはおられません。さて私は、

された皆様に深く感謝申し上げます。

又記念事業として、同窓会館の建設・記念誌の発行・染色型紙の整理と製本・同窓会員の名簿作成・OB美術展・記念CD・テレホンカードの作成等、いずれもすばらしい事業で百周年の歴史の一頁に輝かしい光を放つ、足跡になる信じます。

本堂にご苦勞様でした。

◎ 郡山会工会総会報告
総会は同窓会本部より、吉田一栄会長、学校より渡辺 秀雄教頭先生、事務局の風間真一先生、東京会工会より、赤津 伸雄会長の出席をいただき、五月十八日(土)午後六時より盛大に開催されました。

来賓の方々より学校の近況、同

退職後六年目を迎えますが、四二年間の会社生活の中で、数えきれない程の難局打開の要因は、在学中に「部活動で培った不屈の精神力と体力」によるものが非常に多かったと思っております。私は元ジャイアンツ島田捕手(昭二九J卒)が三年生の時に母校に入学し野球部に入りました。甲子園出場を夢見ての炎天下での練習は、監督(当時は栗城孝夫先生)による百本ノックの嵐に歯を喰いしぼり耐え抜く事の毎日でした。私はシヨートのポジションで、野球部であれば誰しもが経験していること

行為を通して、好き嫌いも体験するそのような出会いのなかで、自分というものを身につけてゆくのです。そして中学高校と少年から青年への、多岐な時代を、経験し成長してきました。又「学ぶ」という師弟の関係から、尊敬や愛の心が生れるのです。個性と知識のある先生と逢い、恩師と良き友人に係る事ができた事、やはり多岐聖縁の言葉通りであると思います。今しみじみそれを想う時、改めて同窓会の存在が、暖かいもの思へてくるのです。百周年、おめでとうございます。

思い出の 「鶏頭なるも牛 尾なるなかれ」

東海会工会 総務幹事 星 芳雄
(昭36E卒)

創立百周年、誠に目出度うございます。このすばらしい歴史と伝統の会工を築いて来られた諸先輩と先生方の努力に感謝申し上げます。

私は四十一年前卒業、今年定年退職し、現在の日本経済状況を冷静に観察し考えることは在学中、電気課菊池課長先生の「工場経営

の授業で教え頂いた『鶏頭なるも牛尾なるなかれ』の一節です。最近の若者の寄ば大樹の陰よろしく中小企業離れ、理工系離れ等々による技術系企業の停滞が今日の不況をもたらしている一因ではないかと思う。

この不況打開は、日本二重構造の大部分を占める中小企業の活力こそが、日本経済再発展の一因であると思う。

就中ベンチャー企業の興隆こそが日本を救う原動力かと思う。かつてのソニー、ホンダのように、小柴昌俊ノーベル物理学賞受賞を支えたスーパーカミカンデの光電子増倍管を製造した浜松ホトニクスのように「ものづくり日本」を再構築するにはベンチャー企業の活力こそが必要と思う。

さらに、不況打開には金融不良債権処理が必要であるが、負の処理だけでなくプラス指向社会の活性化、人的資源の再開発が必要かと思う。

その為、多くの有識者が云っているように、時代にマッチした経営スタイルの経営者育成、過去にとられない新技術開拓者の育成等々人材育成の必要性が説かれていく。

技術立国日本をめざし、勇気と知恵を持ち各人の能力を発揮していけば不況打開は可能かと思う。

会工同窓生の皆様が規模の大小は別にして各人の立場で先頭(鶏頭)に立ち日本を引っ張って行く気迫が必要と思う。

それが菊池先生の教えかと思う。今日この頃です。

REPORT&MESSAGE



子園出場をめざし更なる奮闘を期待します。

おります。平成十一年七月末、甲子園大会の県予選が福島市あづま球場で行われ、母校野球部はベスト四まで勝ち進み準決勝で日大東北高に惜しくも敗れました。その時私は福島会工会を代表して応援に駆けつけました。応援しているうちに、これまで勝ち進んできた母校の選手諸君のすばらしいプレーを見ながら前述した四十数年前母校グラウンドでの練習風景が懐かしく思い出されました。

母校野球部の諸君!!
母校創立以来成し得なかった甲



鶴雲雄飛

創立百周年記念事業への灯火

電友会 会長 真田賢祐

明治三十七春なかば・会工高
校歌の一節です。近年に多くの県
立高校で百周年の記念行事開催を
羨らでいました。己の生命力が存
続するかを忘れて、時節到来万物
の雲長の願が叶い開催の機会に恵
まれ、感謝と興奮の余りでした。
事業目標も決まり、同窓生の数よ
り想定、軽るいと考へた、皆さん
が集中して参加が必要条件でした。
甘い分析が誰れかが遺る出番が無
い、との考えが依頼心を生み他力

創立100周年への回想

猪苗代議会議員

猪苗代会工会幹事長 長谷川与一

母校が創立100周年の輝かしい歴史を刻んだ90周年記念事業の頃から、同窓会や関係者の方々と共に、創立100周年に関心を持ち、同窓会館の建設も待ち望んでいたのです。大きな喜びと誇りと感動を覚え、新たな希望と期待を抱く昨今である。工業立国の気運の中、明治35年9月に設立が認可され、明治37年4月15日に全国屈指、県内唯一の工業学校として開校。明治、大正、昭和、平成の各時代を経て二万人を越える人材を送り出し、今

質実剛健

本願と加速し、募集期間が僅かの頃には意外な風評が流れ飛び込み、目標達成が危ない情報でした。理解したい物事に慌てて呆然とした記憶があります。

今迄自分は何をしていたかです。自問自答が来る日も続く模索分析した結論は
一つ与へられた残り企業訪問する事
二つ同期生同科卒業生へのPRの実施
三つ未組織地域同窓生への開拓の実施
でした。結果しまして

日の日本の発展に貢献してきた。質実剛健、文武両道に秀でた会津藩、会津人の根性と不屈の精神が染職や漆工、窯業の分野での隆盛を促し、開校の原動力となり、我々は、この気風を受け継いだ。母校の充実発展に心血を注がれた松江春次、鈴木善九郎の両氏をはじめ、先人の遺徳に尊敬の念が沸いてくる。事務所の本棚の隅にあった同窓会資料記念誌、鶴雲、会員名簿、さらに民友（鶴雲雄飛）と民報（至誠勤勞）の連載に目を通してみると歴史の重みがひしひしと伝わってくる。私が在籍したのは60周年間近い昭和37年から40年の三年間、高度経済成長期で、東京オリンピックが開催、田舎道場でのテレビ観戦がなつかしい。生徒会長として編集に苦心した鶴雲第4号を観ると、同窓会寄贈の会

一つは電友会総力を結集したゴー作戦と展開となり四十余名の協賛者を開拓する事が出来た。更らに未組織地域同窓の発掘でした。事務局の連絡では相当数の住所不明者の報に接し実態調査の結果理解する事が出来た。同窓生は勤人が多くは転勤族でした。三月から七月のお盆帰郷を目標に展開し、多くの賛同者の支援により実施する事が出来ました。ゴー作戦では会員五名と新規会員発掘で代表者の人々の苦勞は大変なものでありました。

工ブールの落成、校舎増改築、五輪音頭を踊る大運動会の写真が載っており在学中の様々な事が脳裡に甦る。同級生51名中、18名が地元、県内に残り、市議の藤田君と幹事になり同級生をまとめている。電友会は、真田会長を中心に盛り上がり、行事も多く、会報も発行され、先輩、後輩との親睦が毎年楽しみだ。猪苗代会工会は休止状態から、平成5年12月に再発足にこぎつけ、寺崎会長を軸に地域同窓会として、活動しており、私も微力ながら尽力している。今回の大事業を成功に導いた吉田会長及び幹部役員、学校関係の方々へ感謝申し上げ、母校の発展、会工健児のさらなる飛躍を期待したい。

第一次募集期間が終了して見て、先輩諸兄より多くのご指導・鞭撻を受けました。教訓にこれから行事と私の人生に活用する事としますが、百年以前に築いた先輩方の血と汗と涙で造った「質実剛健の精神」は遠く永の世に至るまで灯もしたくないものです。時代が変れども、環境が変れども、飽く無き努力を出す条件造りが私達に架せられた指針と視ます。この事業が、後輩が、喜びひととして将来を夢みて戴ければ幸福な百周年記念事業と思う。

建友会の思い出語り独り言

建友会同窓会幹事長 手代木利夫

健友会は発足以来、現在迄にチームワークで似て運営をしてきました。私達建築科卒業生を似て組織してまいりましたが今年で五十回生を向えて団結を新に運営して行きます。昭和三十年発足當時は小さなグループでしたが、今日の建友会は強大な組織のもと、毎年総会時に二百五十名前後の集りとなり開催をする様に成りました。来賓の方々へに弁護士、市長、商工会議所会頭など各建設業関係代表者を招待をし当総会に賛助された会員に出席をいただき又学校

REPORT & MESSAGE

セラ友会

セラ友会事務局

十月二十六日におこなわれまし
た創立百周年記念式典、本当にお
めでとうございました。

セラ友会としても、いろいろな
部で協力させていただきました。
その中でも資金担当では、坂内会
長はじめ役員一同一丸となって活
動しました。さらには、鶴翔会館
資料室に展示作品、並びに高瀬者
に対する記念品を十七名のセラ友
会会員からいただき、実行委員会
に寄付させていただきました。また、
式典時の会員にさしあげた記念
品、湯のみ二千個は、坂場副会
長のご協力で実現できました。

そのほかの活動では、二月二十
八日に入会式を三年セラミックH
Rにて、坂内会長、坂場副会長、
佐藤幹事長、事務局出席のもと行
ないました。

総会は、三回目をむかえ、七月
十四日（日）サンパレス会津にて、
学校長、本部同窓会、各修養会、
PTA会長出席のもと盛大に実施
しました。今年度は、役員改選の
年度であったが、坂内会長が再選
され、新役員には顧問の佐瀬昭八
（20K）氏、監事の板垣正宏（35
K）氏、幹事の佐藤俊二（57K）
氏の三人が加わり、監事より関場
一宏（33K）が副会長になり新た
なスタートをきりました。

新事業としては、見学会を兼ね
た研修会、セラ友会独特のホーム
ページを作り、インターネットに
より、日本各地の会員に発信、情



報交換、会員の組織の拡大をはか
るようにする。
また、会員からの年会費等の徴
収方法は、会計担当の渡部洋子
（32K）氏の力添いで郵便振込にて
納入することができるようになりまし
た。
最後になりましたが、母校百周
年記念が無事、盛大に行なわれま
した事、会員皆さんで喜びたいと
思います。またセラ友会顧問でも
ある吉田実行委員長、ごころうさ
までした。会員一同感謝申し上げ
ます。



百周年を機にこれから

三菱伸銅鶴友会 会長 江花俊和

創立百周年ということで、校歌
にある「明治三十七」はどんな時
代だったのか、浅学の身には想い
が至らなかったのですが、日露戦
争勃発、若松・喜多方間の鉄道開
通の年であり、若松市制施行の
五年後、元会津藩家老西郷頼母死
去の僅か一年後と知るに及んで何
ともすごい時代に創立したのでと
改めて母校の歴史の重みを感じた
ことでした。

そして近代工業立国の先駆けとし
て意気に燃えて学ばれ活躍されたで
あらう先輩達を想うと感動と尊敬の
念を覚えると共に、改めて校歌の一
節の味の深さを知りました。

長、同窓会長、恩師の先生を招き
我々会員共に開かれる様になりま
した。私は会長職は四代目で初代
佐友一氏二代目藤島昌雄氏は故人
となられ三代目青山昭一氏（当建
友会顧問）と、優秀な先輩同輩の
足跡を汚さず、一生懸命運営をし
て行くつもりです。建友会が運営
できるのも、毎月八日に「ひよた
んすし」で無尽を三十名の運営委
員幹事代表者が集り情報及び運営
の検討をして現在に至っております。
会計の川崎氏の努力に感謝をし
ます。又年一回の旅行も会員の
親睦かねて実施をしております。
その間建友会にならい電友会、機
友会、セラ会も出来て我が会工会
同窓会を支えることになり一〇〇
周年事業が成功のうち出来たのも、
我が建友会が起爆材となり各科会
が出来、全科会が力を合わせ一〇
〇周年事業に実行委員会に協力を
した結果の表れだと思ひます。

私が学校へ入学した当時昭和二
十五年は制図の時間には制図板の
取り合い当時一年三年生まで共
有したので良い制図板の取り合
い現在では感えられない思い出。
入学時の応援歌の練習（先輩にし
ごかれ）みんなが遊んで学んだ学
生であった。卒業時の就職難で卒
業時に二人しか内定をしなかった
時期で苦しい時代（昭和二十八年）
でした。今日の卒業生は夢みた
いた時代であった。発足当時の
小さな水滴が大きな輪となり今迄
に支えた人々に感謝をし今後一生
果命、健友会を発展させて行ます。

昭和電工 東長原支部

佐藤国男

世紀を超えて100周年、心からお
祝い申し上げます。21世紀の初頭
を迎えましたが引き続き変化の荒
波にもまれてる今日であります。

当支部は山紫水明の河東町東長原
長谷地にあつて昭和電工（株）、キ
ャボットスーパーメタル、中央ケ
ミカル、PMLの4社があり、化
学品・有機合成・電子材料製造の
中核となつて活躍しており、会員
は現在53名であります。活動はコ
ミュニケーションを主に先輩・後
輩まとまつて楽しくしています。
しかし昨今は世界大競争の大波を
被り、生き残りのための企業文化
から組織の単純化、福利厚生・賃
金のダウン等あらゆる内部の構造
改革と、結果としてのリストラ事
務部門の廃止、コンピュータ化、
アルバイトの採用等きびしい状況
となっております。

さらには製造と販売の一体化に
よる本社の縮小、不採算部門の廃
止・業績優秀製品でも企業戦略と
合わないものは売却などが行われ、
明日に何がかわるかわからない
しさが続いています。いいかえり
ば、今までは企業が自分に何を与
えてくれるから、企業に何を与
えられるかに代わつてきて個々人
の能力を最大限に発揮することが
求められる時代であります。この
ような変化はまだまだ進みます。
こうした中では自分が主体とな

文武両道

至誠勤労

つた、自己責任の時代を迎えたわけ、日頃の研鑽、自己管理をしっかりとマネジメントに全力投入していく気持ちで頑張っており

「至誠勤労一筋に」の伝統の精神を忘れず、さらには後輩の皆様にも引き継がれていくものとおもいますが、さらなる母校の発展を祈念致します。

2002・10・11

敗戦前後の回顧

長谷川雅之
(昭26卒)

昭和二十年四月大東亜戦争(後年第二次世界大戦)末期に県立会津工業学校工業化学科に入学、戦禍に三本の白線のある帽帯をつけ一年生となる。戦争中の為英語の授業は無かったと思う。校歌、応援歌の練習は上級生の厳しきは大変なものだった。配属軍人の樽川教官による手榴弾投げ、雨中での匍匐前進などの教練、本館正門二階には特殊幹部候補生となられた先輩の写真が掲げられていたと記憶している。校庭の半分は田畑となり農業科の窯の煙突の東側に防空壕があった。八月十五日敗戦、昭和二十二年学制改革で併設中学三年生となり二十三年三月で卒業。先生は河野幸男校長、工業化学科塩津科長、担任一年小林陽児、二年阿久津、三年吉田雅先生。昭和二十三年四月から県立会津工業高等学校工業化学科一年生となり二十六年三月卒業した。合計六

全国制覇2冠の遠藤広大 茨城インターハイをレポート

文鈴木重希

平成十四年八月七日、会津工業遠藤広大は、茨城インターハイ決勝戦のリングに立っていた。決勝の相手は熊本・九州学院の河内翔吾。五月の全国合同練習会の決勝で対戦し、判定勝ちした相手であつたが、その動きは前戦の時より鋭くなっていた。1、2ラウンドは河内のジャンプに苦しみ、ポイントを取り込まれた。しかし3ラウンドに入ると、遠藤は意地を見せる。河内の顔面に強烈な右ストレートを決めると、続けざまにボディに連打を浴びせ、ダウンを奪った。判定は十五対七。優勝のジャッジが告げられた瞬間、遠藤は両手の拳を高々と突き上げ、勝利をかみしめた。リングサイドには、これまで遠藤が厚い信頼を寄せて来た富樫実監督がいる。リングを下りた遠藤はまっすぐ監督のもとへ向かい、苦しかった練習を思い出しながら無言で抱き合つた。

「格好良さそうだから」会津工業



に入学した遠藤がボクシングを始めたのは、軽い気持ちからだ。当初は高校で自分のやるべき事が見つけられず、一時は退学を考えたことさえあったという。そんな遠藤を富樫監督は支え続けた。富樫監督は選手経験こそないが、平成六年に会津工業に着任して以来、ボクシング部顧問として熱心に選手を指導してきた。炎天下でのロードトレーニングでは、監督自ら汗だくとなって選手たちを引っ張った。監督の懸命な姿が選手たちのやる気を奮い立たせ、その実力を充分に発揮する導きとなった。

富樫監督は早くから遠藤の素質を見抜いていた。先天的な運動神経の良さ、精神的なタフさ、パンチの強さ。「チャンピオンに育てる」と心に決めていた。遠藤もその富樫監督の熱意に応えるべく日々厳しい練習に耐えた。勝利する喜び、敗北の苦しみ、悔しさを味わうなかで、遠藤はボクサーとして成長していった。「今の自分がいるのは監督のおかげ」チャンピオン遠藤の言葉は、彼の肉体的な成長をも私たちに感じさせてくれる。

OBの大八木さん マラソン人生披露 会津工で「高い志もて」 創立百年記念講演

会津工高(八巻茂雄校長)の創立百年記念講演会は九月十九日、会津若松市の同校体育館で行われ、同校出身で駒沢大学陸上部監督の大八木弘明さんが「マラソン人生」と題して講演した。

大八木さんは河東町生まれで、会津工高から駒沢大に進学。箱根駅伝で二度、区間賞に輝いた。実業団のヤクルトに入社し、フルマラソンも経験。一九九五(平成七)年に駒沢大のコーチに就任し、マラソンの日本記録保持者藤田敦史選手(富士通、清陵情報高卒)を育てた。今年一月の箱根駅伝では同大を総合優勝に導いた。

大八木さんは「日本で一番高い山は誰でも知っているが、二番目はあまり知られていない。やるからには一番を目指すという姿勢が大切」と高い志を持つ大切さを強調。在校生たちを激励した。



REPORT&MESSAGE

10/4(金) 体育祭

去る10月4日、好天に恵まれた中開催された「会工100周年記念体育祭」は、歓声と応援の渦のなか大きな盛り上がりを見せました。

3年に1度行なわれるこの一大イベント、今年は100周年と重なっており準備にもいっそう力が入りました。生徒会では夏休み中から案を練り、準備を重ねてきましたが、そこに部活動や実行委員たちの力が集結し、一般の生徒たちも大いに力を発揮することができました。

今回、見事優勝に輝いたのはA科でした。



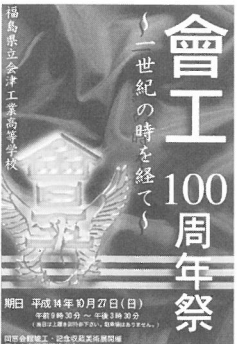
10/25(金) オープニングセレモニー

会津風雅堂を会場とし、生徒の意見発表会、パフォーマンスなどが行なわれました。



10/27(日) 会工百周年祭 公開イベント

本校を会場とし、「各学科の歩みと未来」の展示、各学科の記念グッズ販売、ロボットの展示、バザーなど多彩なイベント。3年ごとの恒例の「会工祭」と違い今回の記念イベントは1日のみ。しかし、新築された「同窓会館」の一般公開を祝してPTAがお祝いの餅つきをするなど、意義深い催しとなりました。



▲記念品グッズ

創立百年祭

会工100周年祭

[illegible]

学窓追憶

「百周年の募金協力に感謝致します。」

百周年事務局 根本 一雄
鈴木 長九郎

同窓生の皆様、このきびしい経済環境下いかに、お過ごしでしょうか。時には、くじけそうになるときも、高校時代に歌った、校歌や応援歌を思いおこして、ぜひに、困難に、打勝ってもらいたいと思います。そして、家族のため、社会のために、尽力していただいたら幸いに思います。

平成九年度に、創立百周年の記念事業や、協賛事業を成功させるために、創立百周年記念事業実行委員会が発足しました。九回にわたる準備会のあとに、第一回実行委員会が、平成十年一月に行われました。

そこで、実行委員会の会則、組織体制、記念行事、記念事業の内容、予算案が審議されました。実行委員長に、昭和五十五年より、二十数年間にわたって同窓会長をされている吉田一栄氏が就任されました。

創立百周年の記念事業としては、会津工業には、会津第二高等学校の銀鳥寮をゆずり受けた古い合宿所しかないので、二十一世紀の会工健児を育成するための同窓会館（合宿所兼同窓会資料展示館）を建設しようとするものであります。記念事業を計画したころは、まだ、バブル崩壊後年月が浅く、今ほど経済環境のきびしさが感じられなかったわけですが、年月がたつことに厳しさが増し、当初の二億二千万円の募金目標を達成することは、容易なことでないことを悟らせられました。しかし、保護者、職員はもちろんですが、校内外の実行委員のできるかぎりの力を結集した企業募金の実施、同窓会の組織をフルに活用した（東京、近畿、東海会工会等の地区会工会、建築、電気、機械、セラミックス科の科の同窓会、三菱伸銅、若松ガスグループ、東京電力、北芝電機等電機等の職域同窓会、若松会工会の十四支部による協力による）同窓生からの募金を実施して、目標達成に全力を尽くしました。

この募金の趣旨に賛同して、特に、教職員の場合は、目標の壹千万円をはるかに越えることができました。企業募金では、かつてないきびしい状況の中、多くの企業に協力していただきました。

又、同窓生約二千人からも尊いお金を寄付していただきました。心よりお礼申しあげます。おかげさまで、記念事業の同窓会館、名称「鶴翔会館」を建設することができましたが、しかし、まだ備品費などの資金は十分でなくて、来年八月まで募金活動は継続しております。同窓生の皆様には、一度、母校を訪ねられてその姿を見ていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

「伝統に驕ることなく

生徒会長 土屋直史

遠い過去に誕生した会津工業高校は、今年でめでたく百周年を迎えました。私達は、昨年から「百周年記念講話」や学科ごとの歴史を知る機会に恵まれ、会工の歴史の重さを理解する事ができました。更に、記念式典が近づくにつれて、「百周年おめでとう。」などと声をかけられる事がとても多くなり、周囲の方々の関心の高さに、改めてその凄さを痛感しました。

百周年を記念して、同窓会の方々のご尽力により立派な同窓会館が建設されました。松江春次記念講堂の面影を残し、暖か味のある建物で、私達生徒と先生方も、壁面のモニュメント製作に参加する事ができ、これも大変良い思い出となりました。

この「鶴翔会館」は、今後合宿所として大切に利用させていただきます。また、生徒会では、この施設を合宿の場以外にもより有効に活用する道はないかと模索しております。実際に幾つかの意見が出されており、成るべく多くの生徒が利用できるよう十分に検討し、利用法についてお願いしていく事になります。お願いします。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度を振り返ってみますと、会工生の頑張りは素晴らしく、全国レベルの活躍が目立ちました。特に、ボクシング部と機械研修部は、全国制覇を遂げ、又、資格取得でもすばらしい功績をあげるなど百周年に花を添えることができました。

私達は、これからも各分野で存分に力を発揮していこうと思います。そして、先輩が築いてきた伝統を守るのではなく、発展させていくことをお約束します。

REPORT&MESSAGE

「至誠勤勞」すじに、進む健児の意気高し…」謳い継がれてきた校歌の如く、希望に満ちた卒業式を迎えたい。同窓の連携が、これほど期待された時代はない。ときは今、歡喜の母校創立百周年前夜。

少ない求人！後輩の前途にび支援を！

進路指導主事

湯田恒弥

■ 同窓会の皆様には、日頃から本校生の就職につきまして多くのご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

■ 以下に、本校生の最近の進路状況をお知らせし、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

1. 昨年度の進路状況

会工100年の長い歴史の中で、昨年は大きく様変わりしたことがあります。進学者の数が就職者の数を上回ったのです。県教委の指導によるライジングプランの一つに「進学率の向上」があげられますが、その運動の成果が大きな理由の1つです。次にあげられるのは、社会の景気回復の遅れではないでしょうか。希望の職種に就けなかったで、専門学校や大学で資格を取ったり、学問を身につけながら就職戦線の回復を持つ・と言った理由で進学した者もおりました。

平成13年度の求人の特徴は、前途の理由で特に県内で求

人数の減少が著しく、一昨年は44名採用していただいた富士通グループ企業ですが昨年度は2名、三菱伸銅は0名と厳しいものがありました。

■ 県外就職では、本校のOBが社長を務めておられる東京地区の企業に女子生徒2名を採用していただきました。女子生徒の求人が少ない中で誠にありがとうございました。厳しい就職戦線の中でこの様なOBの方のご配慮は誠にありがたく、厚く御礼申し上げます。

■ 進学関係では、大学が^{21.3}%、短大が23%、専門学校が25.4%となつています。前述のとおり全体の49.0%が進学し就職者(44%)を上回りました。中でも大学進学者が18名(52%)増えたのが目立ちます。

■ ここ数年來、多くの大学から本校指定の推薦依頼が届いています。それら全てに応じきれないほどの多くの依頼数です。主な進学先としては山形大学工学部2名、日本大学工学部19名、いわき明星大学8名、日本工業大学9名などです。

■ 専門高校で学んだことさらに磨きをかけ数年後の就職戦線で希望の職種に就けるこ

とを願うものであります。

《表1》

就職	一五三
県内	五三
県外	七七
公務員	九
自営・家事	一四
進学	一七〇
大学	七四
短大	八
専門	八八

■ 進路未定……………一三
(但し、進学未定者8名を含む)

2. 今年度の求人・求職の状況

■ なかなか回復しない厳しい経済状況と雇用環境の中で、本校生に対する求人数は大幅に少なくなつてきています。

■ 特に地元企業からの求人数は、さらに減少し厳しくなつてきています。(表2参照)なおこれらの企業数の中にはインターネットから取り出した企業もありますので、本校に直接、求人票を持参されたり郵送されたりした数はさらに少なくなります。

■ 今年度から就職戦線で様変

わりましたことがあります。職業安定所や企業・高校側で話し合いの結果、従来は1人1社受験だったのですが、10月1日から企業の了解を得た場合限り2社まで企業を受験できるよつたことです。

■ 全国に先駆けて福島県でも導入しましたが、現在までの所、その恩恵には授かつていません。受験する企業が少ないのです。

■ 県外企業の求人数も前年度に比べて減少しております。少ない企業に多くの生徒が志願するものですから競争率は自然に高くなり受験しても合格することは難しくなつてきています。中には10倍近いところもあります。そんな中で東日本旅客鉄道に電気科から3名合格するなど健闘しております。

■ 《表2》

県外	求人企業…一三七 希望者……………四七
県内	求人企業……………四八 ☆会津……………三七 ☆その他……………一一 希望者……………七三

■ 合計…求人企業…二八五

希望者………一二〇

(但し、希望者数は4月下旬調査のもので、公務員希望者数を含まない)

■ 今年の本校に対する求人の特徴も昨年と同様の傾向にあり、以下のとおりです。

- ① 地元からの求人数が減少(27社減42.2%減)
- ② 半導体企業及び建設・建築関係からの地元求人がほとんどなくなった。
- ③ 県外企業からの求人数も減少している。製造関係の業種が少なくなった。
- ④ 専門的・技術的な職種の求人が少ない。
- ⑤ 女子に対する求人が少ない。

■ 3. インターンシップの計画
在学中の就業体験(インターシップ)が現在注目されています。早い時期から生徒の進路意識を高めるのが目的です。

■ 本校においては建築科2年生が地元企業のご協力により実施いたしております。他の学科でも実施できるよう職業安定所等との調整や地元企業へ協力をお願いしている所で

す。

■ 皆様のご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

■ また夏休みを中心に3年生が企業訪問を数多く行いました。これは、事前に企業を見学し、事務内容を十分熟知した上で入社試験を受けるものです。今年度は60名の生徒が企業訪問を行いました。

■ ご協力に感謝いたします。

■ 4. 今年の就職内定状況
10月17日現在の状況は左記のとおりです。

■ 《表3》

■ 合格者……………五五名
■ 不合格者……………三七名

■ 昨年度の同時期で合格者が37名減、不合格者は6名減となつており、全体の合格率は前年度より8%低くなつております。また、一次試験で不合格になった場合、次に受験できる企業が著しく少ない状況で、それらの生徒の就職活動に大変苦慮しております。その辺の状況を十分認識して頂いて、皆様方の更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平和の覇者を育みぬ。

校歌から

学び舎 ロケーション ① 専門過程は、いま。

In インテリア科

■主任 小関 栄助

インテリア科の展望

工芸科からインテリア科に学科改編しては10数年になる。この間、インテリア科を造り育んできた先生方は転退職された。しかし、技術という形でインテリア科の中に連綿と受け継がれてきている。創立当時の漆工科で教えていた乾漆はクラフトと呼ばれる工業製品の創作部門、木工加工はNCルーター工作部門で指導。この2部門を中心に、昨年度からMACコンピュータを導入。大きく3つの技術が弊科を支えている。問題はそれを活かせる指導をするかである。

今までは、ものを作れば売れる時代であった。日本製のものは質がよく作れば売れた。質がよければ価格を高くしてもよかった。しかし、この数年間は価格破壊により日本製は売れなくなった。ものづくりに携わるものにとってはこ

のような衝撃的なことはない。当然ものづくりに携わらせる生徒を指導している訳であるから、この現実には直接影響がある。このことは弊科だけではなく、すべての学科に共通したテーマである。いや日本のものづくりに関わるすべての者の課題である。大きな工場は元気をなくしている。光明がないわけではない。良い物を作れば価格が高くて物売れると元気のいい人や会社もある。三菱伸銅の社長は社員に無理に作る必要はないといっている。高品質の合金と高技術のメッキで、量産しなくても単価は上昇するのと思惑か。大学卒・院卒は募集しているが、高卒は採らない。毎週、自宅に来るクリーニング店主、Yシャツの代金が量販店の3倍。しかし、値下げはしないといっている。

話を聞いていると3倍の値段を取らざるを得ない。それでもお客はいる。良い物を作れば売れる。さて、弊科の指導である。私たちは2つのテーマで生徒を指導したい。一つは感性(Sensitivity)の育成、もう一つは技術(skill)の体得である。これが競争に勝てる最高の指導目標である。この2つの指導テーマは、MACコンピュータが入ることにより現実化しやすくなった。また、インテリア科ができる時に導入したNCルーターも活用できる機械である。問題は何かを作るかである。関係するのは感性である。これをいかに育てるかが大きなテーマである。教える側も、教わる側も片手間で指導は大変難しい。可能なら時間をかける必要がある。

F セラミック科

■主任 伊藤 健

今年度、最大の行事は100年に1度の、開催される会津工業高校・創立100周年事業でしよう。生徒会の諸君もこの事業・成功のために本当に頑張ってください。

この期を待っていたように平成12年7月15日には、セラミック科として同慶の至りと歓喜したい組織が誕生しました。この創立100周年に焦点

を合わせたように、セラ友会として組織が結成されたのです。説明を要すまでもなく会津工業高校窯業科(旧科名)セラミック科卒業生・親睦会の誕生です。既に、本校にはOB会として建築科の建友会、機械科の機友会、電気科の電友会という、セラ友会と同じ趣旨を持つ組織は既存しています。しかし、会津工業高校創立100周年の原点・歴史・変遷という観点から、この会の発足が平成12年であった。この創立100周年の事業を成功させようと獅子奮迅・一生懸命に精力をお使いになつてこられた、現同窓会会長吉田一榮氏等、優秀な先輩が多方面で活躍しているにも関わらず、

ということを考えると、多少遅きのは感否定できないのですが、しかし先輩方の、この機を熟した親睦会の設立の機運は決して、他科のOB会に負けません。このセラ友会が会津工業高校・創立100周年事業等のために、何等かな貢献できることを確信して、セラ友会のますますの進展を祈念しています。

進路関係ですが依然、大学、専門学校に進学する生徒が増えています。現在の社会背景も要因として考えられるのですが、しかし、大学進学は理解できるのですが、目的意識が不明確で安易に専門学校を希望する生徒の気持ちが理解できません。セラミック科卒業を条件とする大学も次第に増えつつあります。第一に湘南工科大学です。セラミックスを真剣に学習したい生徒に門戸を開いて下さいました。これもセラミックスという新しい素材が最先端の技術には非常に大事であるという認識が定着している結果だと思ふのです。

就職希望者関係ですが、ここに何年下の構造不況の影響を受け、現実非常に厳しい状況に立たされております。県内外問わず、企業側の今の採用条件として第一に要求されるのは部活動・生徒会活動の活躍ではなく学力試験の結果なっています。これから進路に取り組み1・2年生諸君、この事を、今だからこそ、真剣に再確認して欲しいのです。平成14年度も3年生は進路決定に真剣取り組んでいます。今年の就職率・進学率の結果を期待します。セラミック科の近況報告と致します。

化学工学科

■主任 古畑 一男

平成14年、会工100周年を迎えた今、化学工学科も応用化学科・工業化学科と変遷を経て85年になりました。高度成長を続けた日本に環境という大きな問題が取り上げられています。化学の世紀にふさわしく、ノーベル化学賞3年連続受賞という化学技術の重要性と質の高さの必要性を感じさせる年になりました。

化学工学科は今年鈴木長九郎先生、五十嵐徳昌先生、猪俣昭衛先生の3人が退職されました。しかも3月には山田忠明先生が入院治療の甲斐なく逝去され寂しい限りです。鈴木長九郎先生は再度の勤めを続けられており、会工100周年に多大の尽力を賜りました。しかし、猪俣昭衛先生は退職後の9月に突然の病で急逝されました。つっしんで先生方のご冥福をお祈り申し上げます。

化学工学科は今年、松下俊彦先生、長崎敏秀先生を再度お迎えしスタートしました。新1年生の担任には3年生を送り出したばかりの加藤芳宏先生。2・3年生は持ち上がりで谷田部俊幸先生(体育)と白井まや先生(国語)が引続き担当していただいております。さらに古畑一男・穴澤節子先生と総勢8名と生徒121名で日々勉学に励んでおります。

E 電気科

■主任 梅宮 昭雄

紹介致します。笠井英雄、佐竹勝行、平山賢実、鳴瀬良、川口芳彦、湯田恒弥、渡部哲、丹治一記、佐藤信仁、岩田善一、栗田克志、高橋浩一、佐藤貴裕です。

同窓会の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。今年創立100周年を迎え同窓会のさらなるご繁栄に心から祝い申し上げます。昨年度まで科主任の根本一雄先生は100周年実行委員会のまとめ役に専念し、すばらしい100周年記念行事になるように頑張っています。今年の電気科スタッフは根本一雄、小野常輝(2年担任)、中野善司(3年担任)、吉川久雄、小荒井幾雄、前田昌裕、梅宮昭雄の工業科と高橋徳朗(1年担任・社会)の8名です。主任として力不足ではあります。主任として力不足ではあります。主任として力不足ではあります。

J 情報技術科

■主任 本田 毅

さあ創ろうよ、夢をかたちに。・・・「会工賛歌」より「会工100周年」を迎えた年の同窓会総会の開催、誠にありがとうございます。

100周年実行委員会の総務部のとりまとめを担当して頂きましたので、ごく最近までは、まさに超多忙な毎日という状況でした。しかし、多くの同窓会の皆様にお世話になり、おかげさまで「会工100周年」は、式典をはじめとしまして、大成功のうちに迎えることができました。大変

ありがとうございます。以下に、この1年間における情報技術科のいくつかの動向についてレポートいたします。

1. 科の関係職員動向など
昨年度までの7年間という長い期間にわたって情報技術科の科主任を担当してきました。東條憲先生にかわって、この4月から私が科主任を担当することになりました。昨年度までの3年間は、進路指導部のとりまとめを担当しておりましたので、関係の皆様には大変お世話になりました。今度は学科主任の仕事になりますが、従前と同様によりしくお願い申し上げます。

情報技術科の異動関係ですが、清水先生が福島工業高校へ転出し、かわりに高畑先生が勿来工業高校より来られて

M 機械科

■主任 佐竹 勝行

この春の人事異動により、機械科・電気科の両科で活躍なされておりました佐藤春樹先生が退職されました。また、本校機械科に12年間勤務なされておりました茂木利幸が喜多方工業高校へ転動されました。後任として電気科から鳴瀬良、勿来工業高校から丹治一記先生が機械科の職員に新しく加わりました。又

ンダクタ(株)・若松ガス(株)・リンクノエレクトロニクス(株)・北日本石油(株) 県外就職.....5名
滝川化学工業(株)・三浦印刷(株)・元気寿司(株)・東日本旅客鉄道(株)・ジョーイ・東芝シリコン(株) 大学進学.....9名
山形大学・東海大学・日本大学・いわき明星大学・千葉工業大学・第一工業大学 専門学校.....11名

就職者44名(県内218名、県外15名、未定1名)、進学者34名(4大11名、短大2名、専門学校19名、未定2名) さて、機械科の生徒のみで編成している機械研修部の活躍について報告いたします。(平成13年度分)
○全国ロボット大会予選福島県大会.....2台出場
○全国電動カート高校選手権大会.....3台出場
○ホンダエコノパワー燃費競技全国大会.....3台出場
○全国相撲ロボット競技大会東北大会出場
(平成14年度分)
○全国ロボット大会予選福島県大会.....2台出場
○全国電動カート高校選手権大会.....3台出場
○ホンダエコノパワー燃費競技全国大会.....3台出場
○全国相撲ロボット競技大会東北大会出場

いずれの大会においても我が機械研修部は素晴らしい成績を残しております。土曜、日曜、夏休みを返上して、毎日夜遅くまで大会で勝てるロボット・勝てる車の製作に当たっている生徒諸君と指導に当たっている先生方には只々感心するばかりです。更に素晴らしい成績を得るために努力いたしますが、今後とも先輩各位のご協力の程をお願いいたします。

最後に全ての事に対し懸命に頑張っている機械科職員を

15 会工同窓会報No.27 02(平14)総会号

JRC同好会

私たちJRCメンバーは計23人で、それぞれが責任を持ち積極的に取り組む人たちがばかりです。

活動内容としては、校内・校外両方の活動をそれぞれ行なっています。

校内活動は、1年を通して使用済みテレホンカード回収・古切手回収・書き損じはがき回収を行い、その他校内献血活動における呼びかけ、緑の羽根・赤い羽根などの各



「会津わたぼうし芸術祭」にて

箏曲同好会

「百周年を迎えて」

私達箏曲同好会は、1年生



「会津わたぼうし芸術祭」にて

女子3名で少ない人数ですが、仲良く楽しく活動を行っています。これまで箏曲というものに、触れる機会はほとんどなかったのですが、活動で箏を弾けることは、日本の文化に触れる貴重な体験であり、うれ

種募金活動も行っています。

校外活動は、会津地区の高校10校に呼びかけて一緒に行う活動で、「愛は地球を救う」24時間ヤングチャリティ募金・会津わたぼうし芸術祭の手伝い・街頭共同募金・街頭献血の呼びかけの手伝いなどを行っています。また研修会として夏休みに磐梯青年の家でJRC活動の勉強会と各校のメンバーとの交流会も併せて行っています。

会議も多く、県レベルと地区レベルでそれぞれに総会・大会がありそれらに積極的に参加しています。

しく思っています。

最初のうちは、「難しそう」とか「ちゃんと弾けるかな」とか、不安がたくさんありましたが、日々練習を重ねるごとに、不安はなくなり上達していきました。

4月の終わり頃から練習を始めて、6月の初めには会津風雅堂で、全会津音楽発表会がありました。入会してから始めての発表だったのでとても緊張しました。トップバッターとして、舞台裏で待っている間は、はらはらどきどきしていましたが、発表の時には、少し落ち着き、大きな失敗もなく無事に終わることができました。発表後に、講師の方からのコメントをもらうと、そこにはよかったという感想が多くありました。けれども、反省すべき点もありました。まだ、入って間もなかったのに、これからの練習で改善していこうと思いました。

私達は、これから百周年を迎える会津工業の箏曲同好会として、みなさんに素晴らしい演奏を聞かせるようになりたいです。そのためには、まだまだ練習も、知識も足りないのですが、先生の御指導を仰ぎながら部員3人で協力して活動が続けていきたいと思います。

生活科学同好会

顧問 高久 礼子
戸井田 睦美
会長 古川 善寛

生活科学同好会と聞くと、

クラブガイド

いったいどのような活動をしているのかと思われるでしょう。簡単に言えば、料理を楽しむ同好会です。男女合わせて常に40人程度の会員があり、結構人気があります。モットーは、趣味と実益を兼ねてひたすら料理を楽しむことにあります。この点は平成8年設立以来、いささかの揺るぎもありません。今年度から土曜日の活動ができなくなり、月に1回の活動となりました。会員の中には物足りなさを感じている者も多いようですが、当分はこの体勢で頑張りたいと思います。

先頃開催された「会工100周年祭」では喫茶コーナーを開設し、手作りマドレーヌやクッキーが大好評でした。今後も、このような発表の場があれば積極的に参加したいと思っています。

釣り同好会

釣り同好会について

会長 三橋 勇哉

我々釣り同好会は、主にバスフィッシングを中心とした活動を行っています。他にも、湖が凍結する冬場には、ワカサギの穴釣りなど、いろいろな魚種や釣り方に挑戦しています。

又、皆でときどき集り、最近の釣果や釣り方、場所などの意見や情報を交換することにより、交流を深めたり、自らの技術の向上や新しい魚種への関心が沸いたりするのも

大切な活動の一つです。

同好会内だけの活動だけでなく、各種の大会にも出場する計画もありましたが、都合が合わず、断念してしまいました。その分後輩たちには、大会等に出場して頑張ってもらいたいと思います。

そして、もう一つ大切な活動があります。それは、釣りを通して自然を理解し、保護をしていつまでもこの楽しい釣りを続けられるように、釣りに関するすべての環境を改善して保つことです。

しかし、このことに関して、最近、気になることが出てきました。それはバスの害魚論です。バスは明治時代から日本にいます。それから今になつて、日本古来の魚種が減少

しているのは、バスの害害のためとして、駆除に乗りだす自治体も出てきました。バスは多くの湖沼で安定期に入っており、他の魚種とも共存している状態にあります。それでも魚が減っているのは、生活排水が流れこんだり、護岸工事による産卵場所の減少などの環境破壊が原因などではないでしょうか。その証拠に、管理が行き届いた湖などでは、どちらも豊かに、共存することが証明されています。

このような問題に真剣に取り組んで、いくことが必要だと思っています。そして豊かな自然がいつまでも守っていけるように皆様にご理解していただければ幸いです。

◎「100周年記念誌」の訂正

- 表紙裏 インターローケン芸術学校→
インターローケン芸術高校
p17 出版部の旧職員として、片平寛先生を追記
p17 吹奏楽部定期演奏会
創立60周年記念事業→創立80周年記念事業
p35 本間 至氏 電気科卒業→染織科卒業
p46 東京機電大学教授→東京電機大学教授に訂正
p47 更なる発表を！→更なる発展を！に訂正
p93 情報処理主任→情報処理部に訂正
p9 同窓会幹事の片平寛氏の住所を北会津→
会津若松に訂正
p96 同窓会幹事江花光泰氏の住所を会津若松市→
北会津村に訂正

◎創立100周年記念式典要項の訂正

- p12 1069 水野 銀蔵氏 式典参加を追記
以上、お詫びして訂正いたします。

◎「会工賛歌」合唱のCD (式典で録音)・・・コピーサービス

希望者は、空のCD1枚と、住所・氏名を記入した返信用封筒(切手貼付)をお送りください。依頼先は、本校内の100周年実行委員会です。ただし、希望が多い場合は時間がかかることがありますので、あらかじめご了承ください。